□眺望保全区域・鳥羽湾眺望重点ゾーンの基準

基準表Ｂ、基準表Ｃについては、当該ゾーンに係る景観形成基準のみを抽出していることから、各基準の最初の番号が「１」から始まらない場合があります。

各景観形成基準の番号はP11～P20参照とし、別冊の景観形成基準解説書の図解番号と一致しています。

行為の対象となるゾーンの該当する景観形成基準のみ、

主に配慮した内容を記入してください。

基準表Ｃ

※表中「別表１～２」「別表３」は、「３　景観形成基準」参照

【眺望保全区域：鳥羽湾眺望重点ゾーン（漁港周辺近景保全地区）】

| 項目 | 景観形成基準 | 主に配慮した内容 | 適合 |
| --- | --- | --- | --- |
| 規模・配置 | Ｃ１高さ | ４．建築物等の高さは、できる限り低層とし、集落景観から突出しない規模・配置とすること。 |  | □ |
| 形態意匠 | Ｃ２形態意匠 | １．塔屋を設ける場合は、その壁面や屋根が主体となる建築物等と一体感のあるものとし、周辺の景観との調和に配慮すること。 |  | □ |
| ４．建築物等の高層部や塔屋への過剰な装飾は避け、眺望を阻害しないよう配慮すること。 |  | □ |
| Ｃ３屋根 | ２．主体となる建築物等及び塔屋の屋根は勾配屋根とし、周辺の集落の家並みとの調和に配慮すること。 |  | □ |
| Ｃ４色彩 | １．建築物及び工作物の外観の色彩は、別表１～２の数値基準に加え、高さ10ｍを超える部分については別表３の数値基準のとおりとする。ただし、着色していない木材、土壁、無彩色のガラスなどの材料によって仕上げられる部分の色彩については、この限りでない。 |  | □ |
| 色 | Ｃ５外壁 | １．建築物等の高さ10ｍを超える部分の外壁のうち、基調となる色彩については、海岸や丘陵の自然景観となじむ低彩度色を基本とする。 |  | □ |
| 彩 | Ｃ６屋根 | １．建築物等の高さ10ｍを超える部分の屋根については、海岸や丘陵の自然景観となじむ低彩度色を基本とするとともに、自然景観から突出する高明度色は避けるものとする。 |  | □ |
| Ｃ７素材 | １．視点場や対岸、航路等から視認できる部分への反射性素材の使用は避け、対岸や航路等からの眺望を阻害しないよう配慮すること。 |  | □ |
| Ｃ８附属建築物・附属設備 | １．設備機器類は、視点場又は漁港周辺から視認できる屋上や塔屋への設置はできる限り避け、やむを得ず設置する場合はルーバー等で遮へいするなど、眺望を阻害しないよう配慮すること。 |  | □ |
| Ｃ９夜間の照明 | ２．夜間の屋外照明は、照明の方法や設置場所を工夫するとともに、暖かみのある暖色系の照明を用いるなど、落ち着きのある集落の夜間景観を演出するよう配慮すること。 |  | □ |
| Ｃ１０電気・通信施設 | １．尾根上や山の斜面など、対岸や航路等からの眺望を妨げる場所への設置は避けること。 |  | □ |
| Ｃ１１太陽光発電設備 | １．視点場から視認できる場所や山の斜面への設置は避けること。やむを得ず設置する場合は、人工物（土台や支柱を含む）の存在感や反射光を軽減させる工夫をすること。 |  | □ |
| Ｃ１２風力発電設備 | １．尾根上や山の斜面など、対岸や航路等からの眺望を妨げる場所への設置は避けること。 |  | □ |